

エピネット日本版サーベイ2011 (JES2011)
結果概要報告

「エピネット日本版B 皮膚粘膜曝露」

職業感染制御研究会(代表 森屋恭爾)

エピネット日本版サーベイランスワーキンググループ(代表 吉川徹)

木戸内清(名古屋市南保健所、所長、医師)

黒須一見(荏原病院、感染管理認定看護師)

満田年宏(公立大学法人横浜市立大学附属病院感染制御部・部長准教授、医師)

森澤雄司(自治医科大学医学部附属病院感染制御部、医師)

吉川徹(財団法人労働科学研究所国際協力センター、医師)

李宗子(神戸大学医学部附属病院、感染管理認定看護師)

網中 眞由美(国立感染症研究所 細菌第二部第一室、感染管理認定看護師)

和田耕治(北里大学医学部公衆衛生学、医師)

JES2011の概要

- ・ 目的
 - 血液媒介病原体による病院感染・職業感染予防を目的として、
 - 日本の針刺し切創事例等の発生動向を把握
 - 針刺し切創の発生リスク要因の解明と予防策の提案
 - サーベイランス参加病院でのデータや経験を交流する素地を形成する
- ・ 方法
 - 企画・実施: 職業感染制御研究会・エピネット日本版サーベイランスワーキンググループ(JESWG、ジェスウオグ)
 - 倫理審査: JESWGメンバー所属の研究所で倫理委員会(2009年4月実施)
 - 2009年7月: エピネット日本版全国サーベイランス(JES)参加病院の募集、117病院が文書で参加表明(JES2009参照)、JES2009の結果の公開(HP上等)
 - 2011年8月: JES2009参加114施設に、メールリストでJES2011と施設調査への参加、84施設がJES2011に参加意向有りと回答。
 - 2011年12月までにエピネット日本版A、B (Episys201A&B)による針刺し切創データの提供78施設、データ数計23,701件(過去データを含む)
 - 2011年12月～データクリーニング、分析、参加施設へのフィードバック(予定)
 - 2012年2月成果の公表・評価、職業感染制御研究会HPへアップ(予定)

エピネット日本版サーベイ2009(JES2009)分析方法

Episys B: 皮膚・粘膜曝露

- ・ 分析対象データ
 - 今回のJES2011参加病院から提供されたエピネット日本版Bによる皮膚・粘膜曝露報告データ2,635件を、それぞれ過去に提供を受けているデータに重複を避け施設ごとに連結した
 - 今回のデータ提供は66施設、2009.4.1-2011.3.31は837件
 - 過去のデータ(2004-2008)は、JES2009のエピネット日本版Bデータ
 - 2004年4月1日～2011年3月31日に発生し、各施設においてエピネット日本版Bに入力された皮膚・粘膜曝露事例
 - 分析対象となったデータBは2,328件(2004.4.1-2011.3.31)
- ・ 分析方法
 - 収集されたデータを集約、データベース化し、Episys201の集計機能等を利用して解析した。

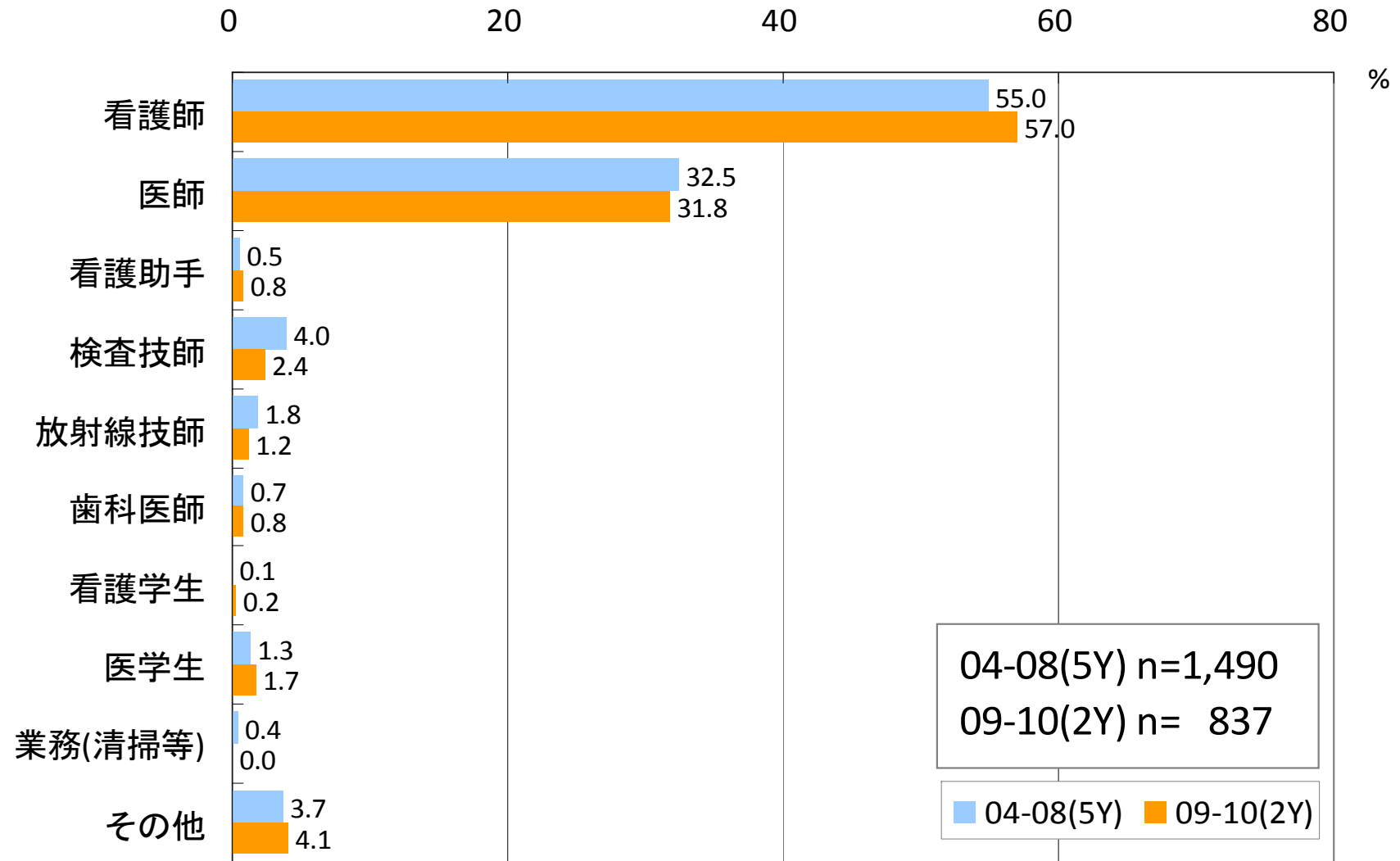
方法：エピネット日本版B提出データ数

年度 (4月～翌年3月)	年度データ 提出病院数	提出データ数
2009	60	421
2010	58	416
2年間 ^{*1}	63 ^{*2}	837

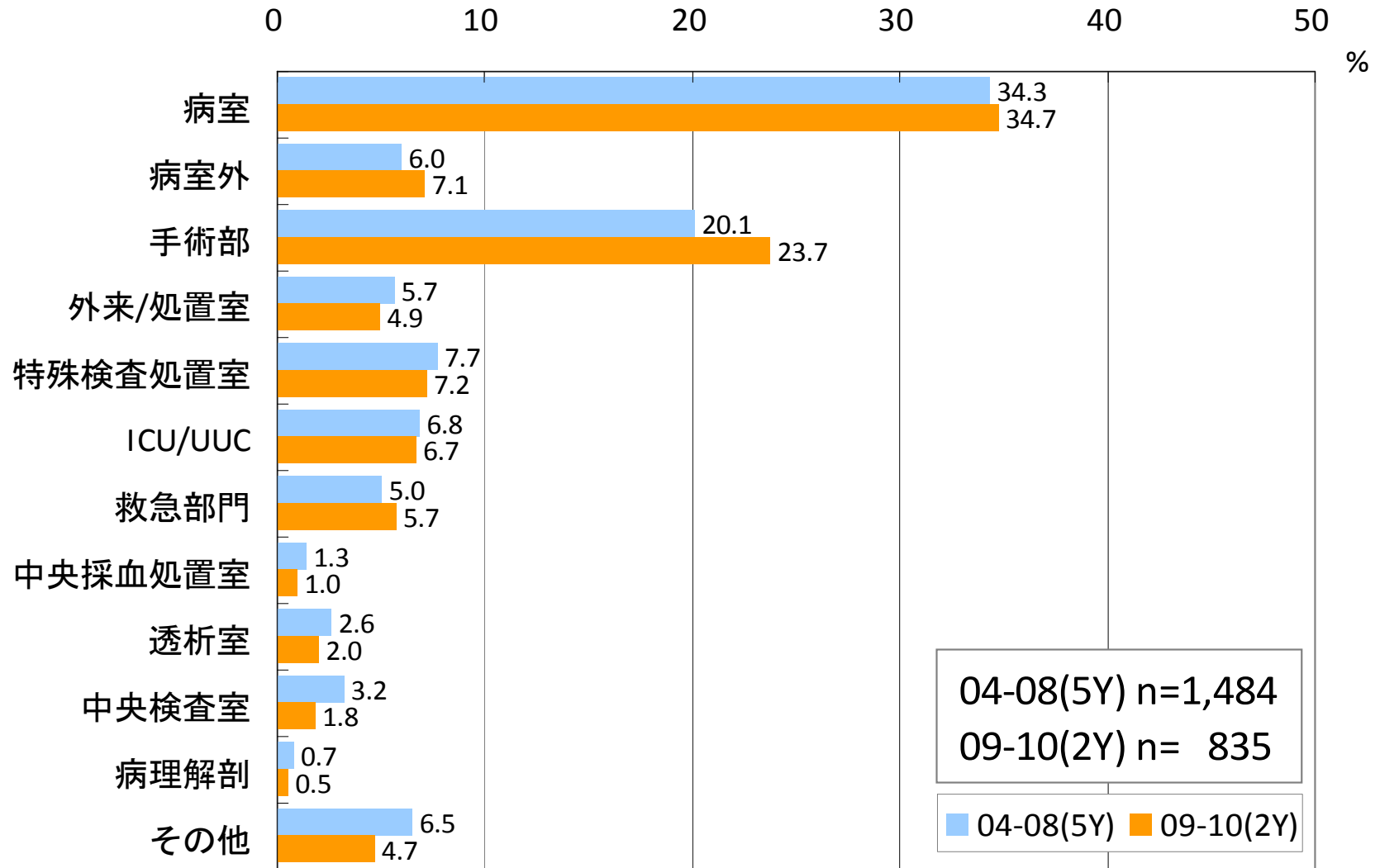
*1 この2年間以外に2009年3月31日以前のデータ 1,785件、2011年4月1日以降のデータ13件の提供あった。

*2 66施設からデータの提供があったが、この2年間のデータに限ると提供は63施設となった。

結果：皮膚・粘膜曝露報告者の職種

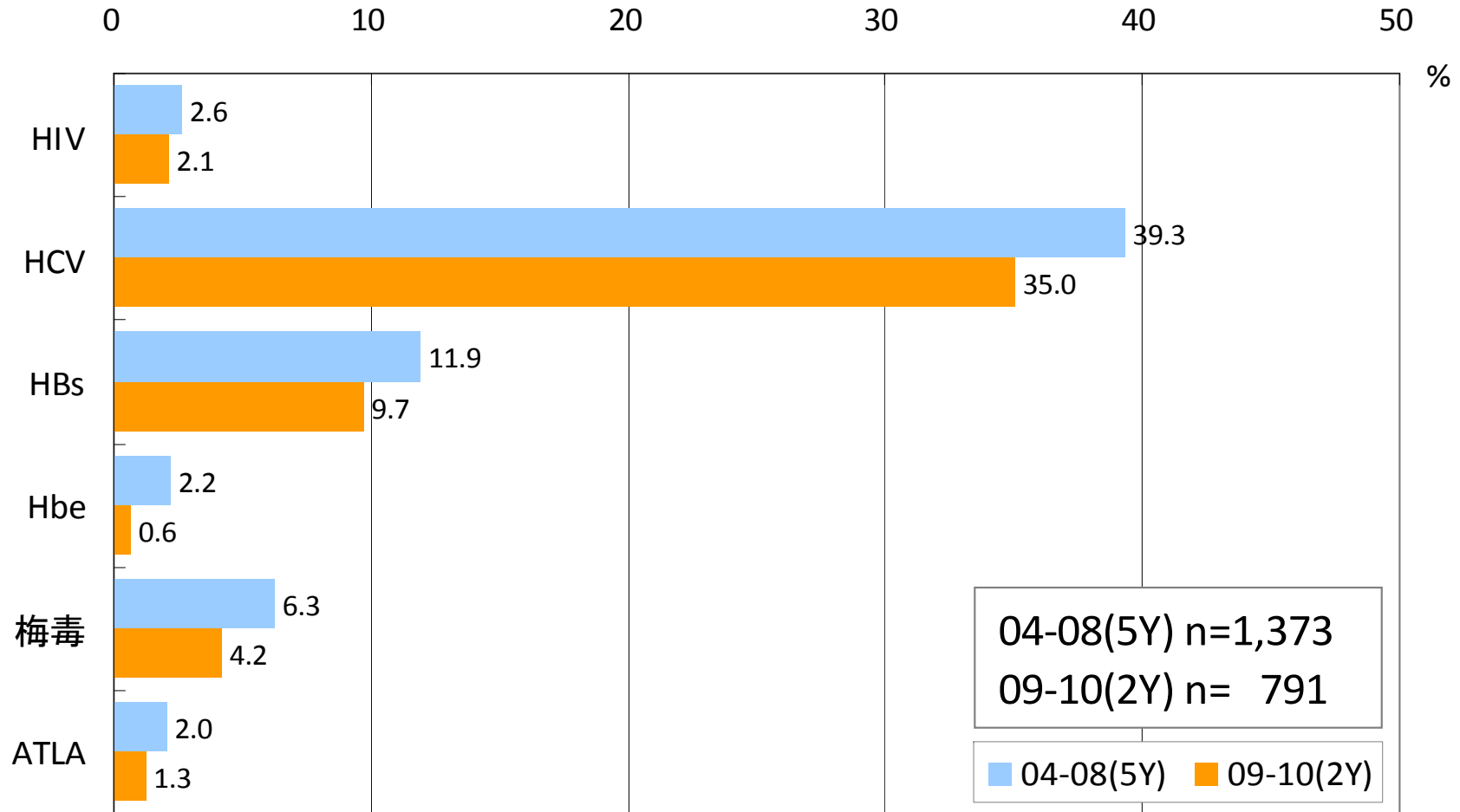


結果：皮膚・粘膜曝露の発生場所

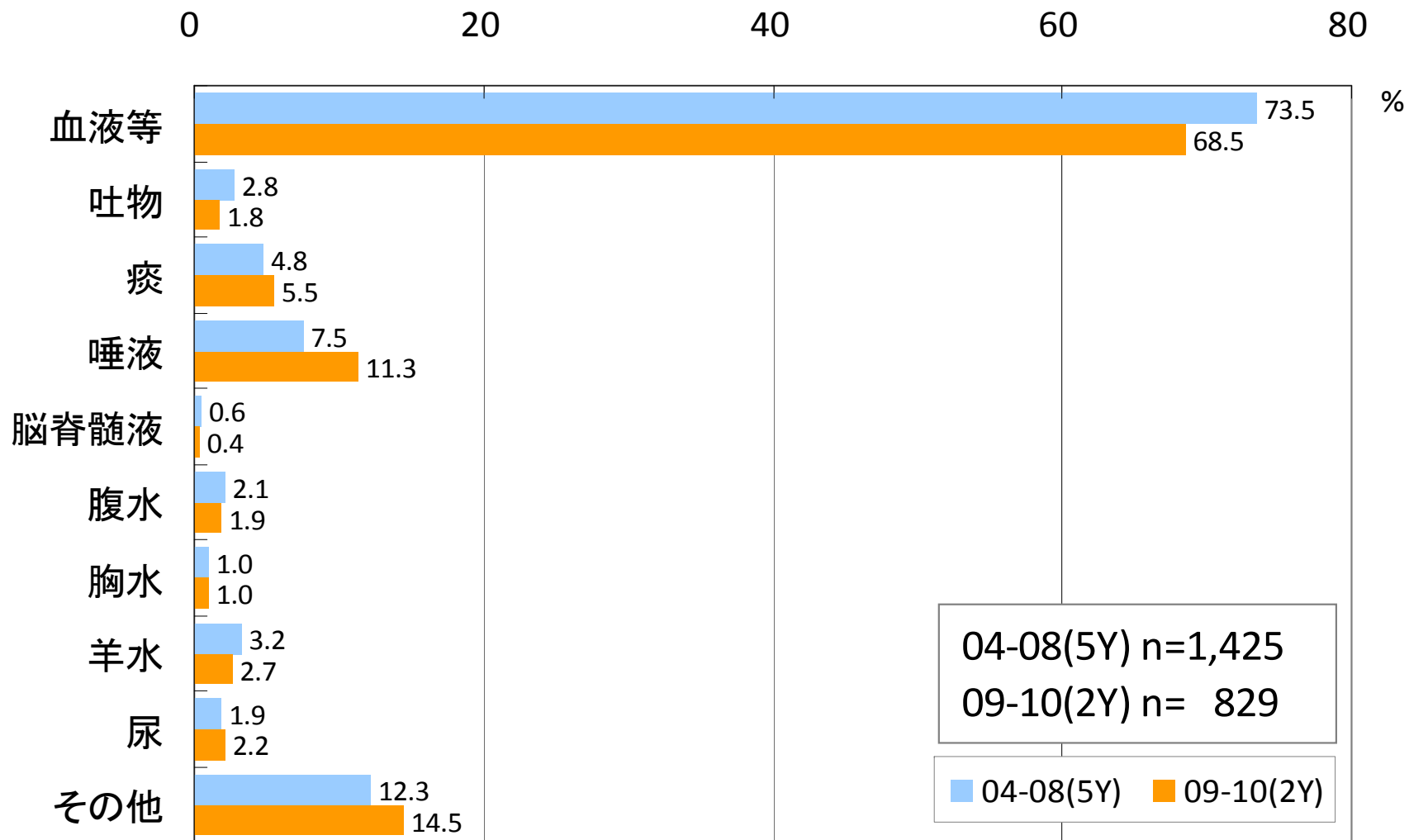


結果：曝露源患者の感染症検査の陽性率

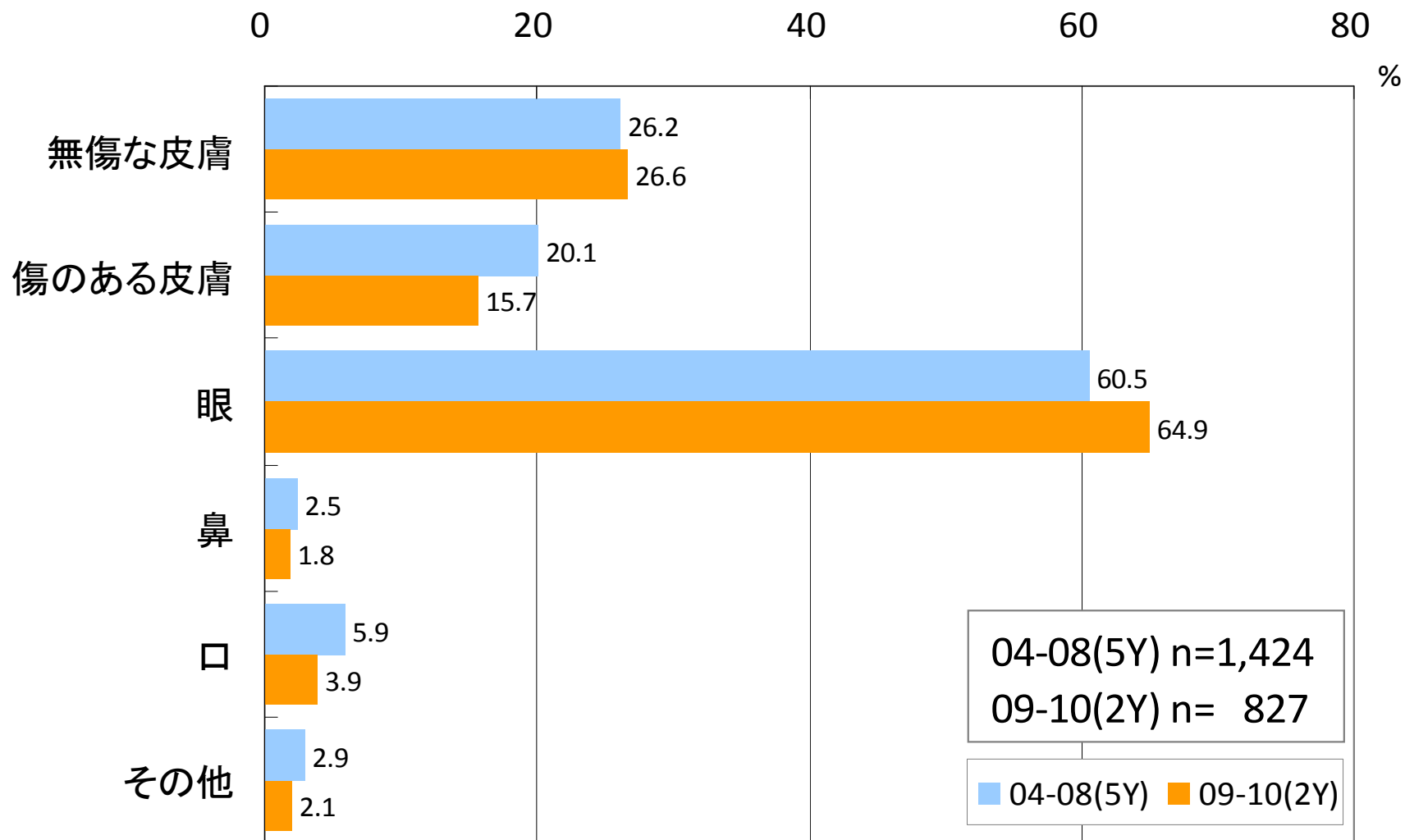
(母数は患者確定の報告のみ)



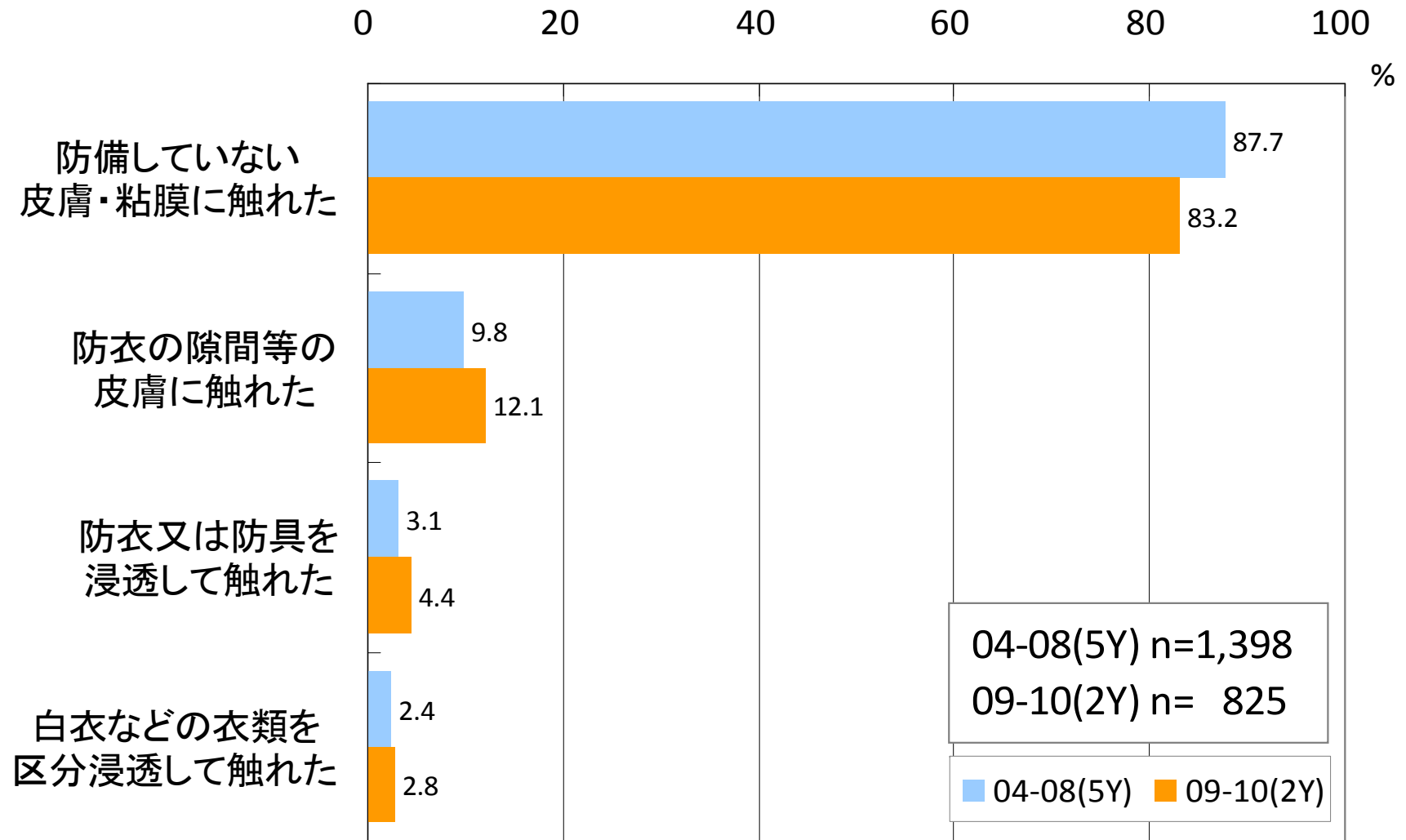
結果：曝露した血液・体液の内訳



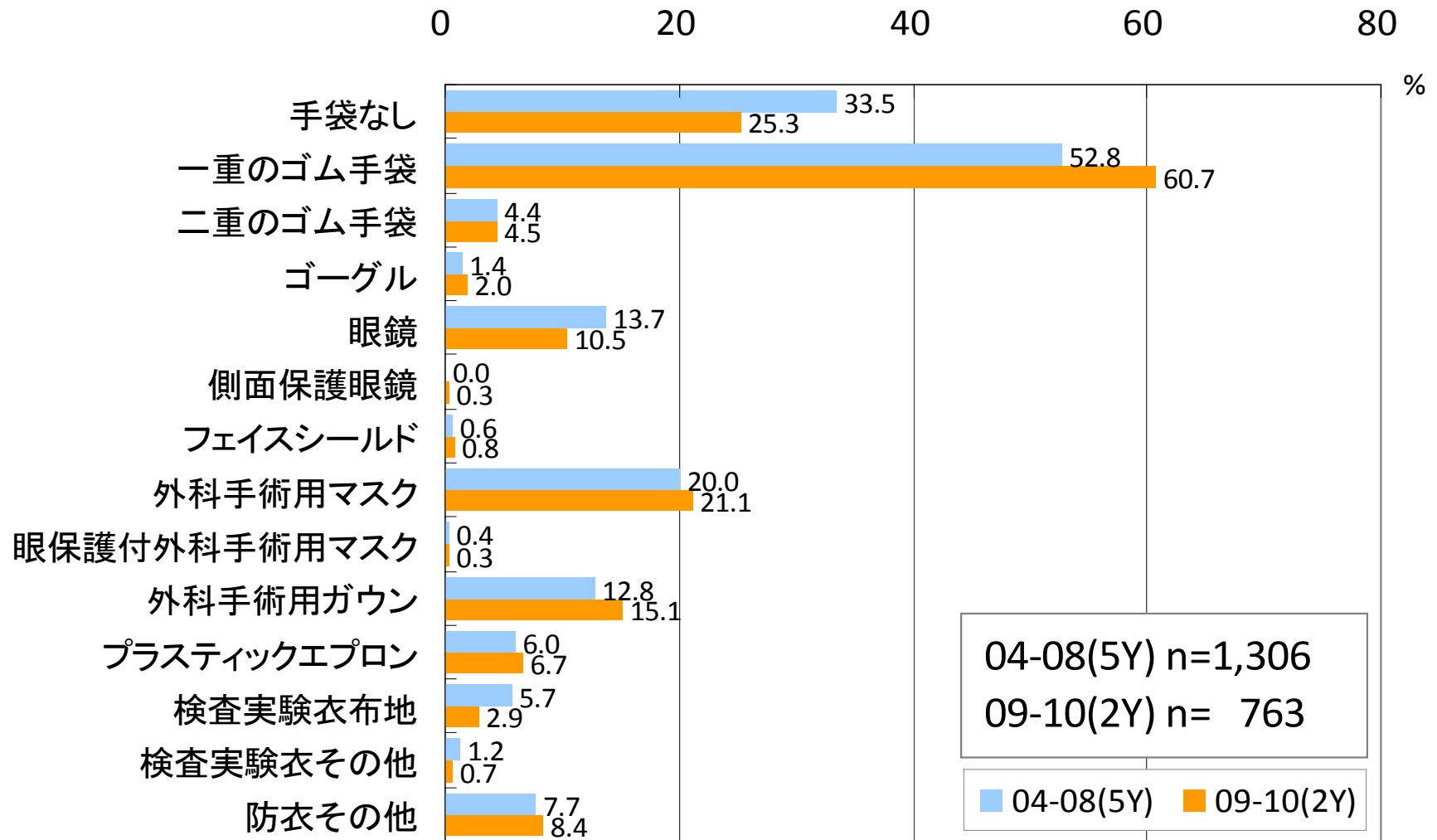
結果：汚染組織・状態



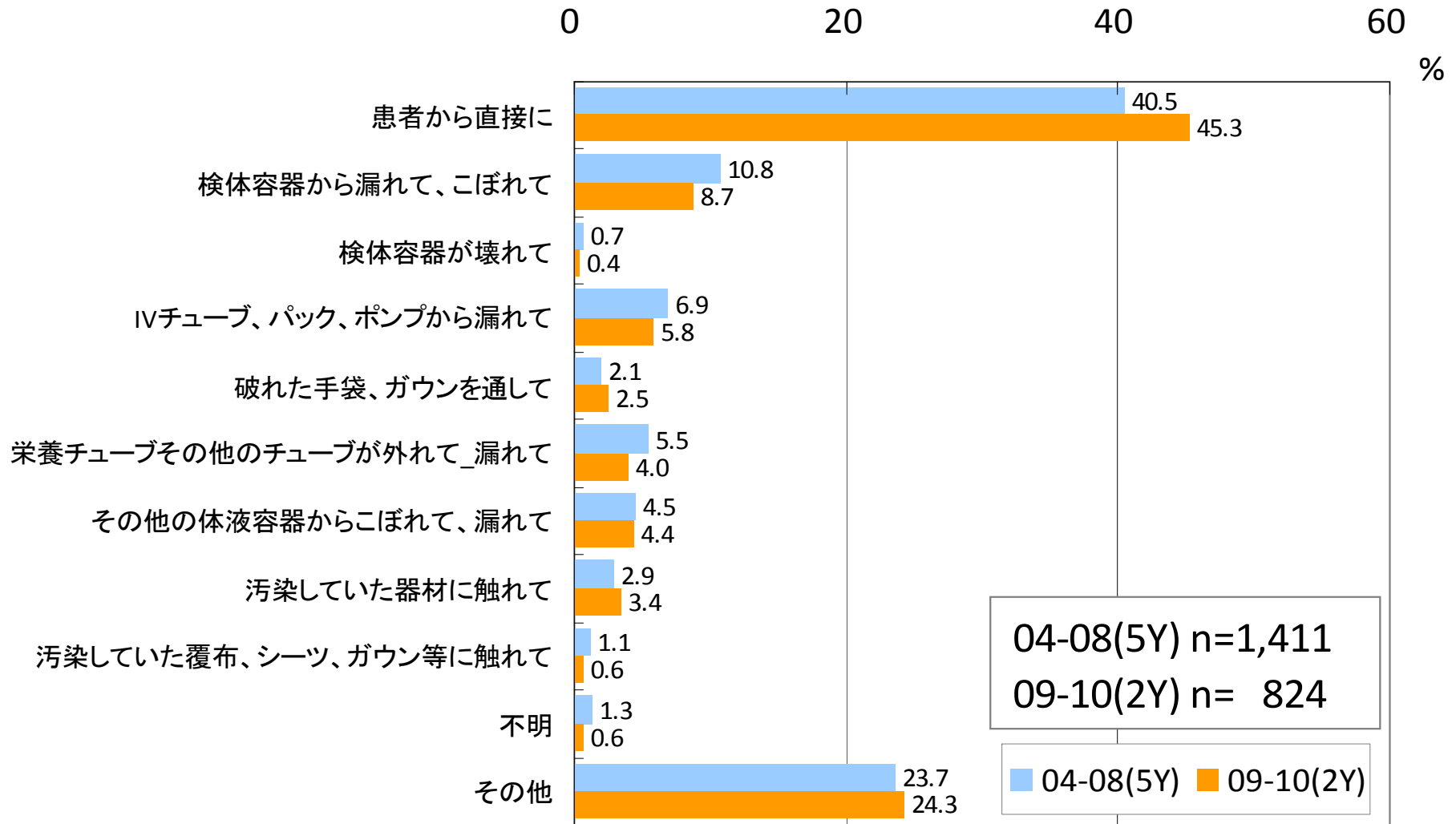
結果：汚染時の状況



結果：曝露時着用の防護具



結果：曝露した経路



結果：汚染時間、接触量、ワクチン（2009-2010）

11. 汚染時間	件数	%
5分未満	622	79.0
5～14分間	98	12.5
15分以上1時間未満	46	5.8
1時間以上	21	2.7
計	787	100.0

12. 接触した量	件数	%
少量(5cc未満)	711	91.4
中等量(5～50cc)	60	7.7
大量(50cc以上)	7	0.9
計	778	100.0

14. HBs抗体	件数	%
はい（ワクチン接種）	577	73.5
はい（自然陽転/既往疾患）	25	3.2
いいえ	110	14.0
不明	73	9.3
計	785	100.0

15. 緊急処置時汚染	件数	%
はい	101	12.5
いいえ	705	87.5
計	806	100.0

JES2011エピネットB(皮膚粘膜曝露)まとめ(1)

- JES2011は81病院が参加、エピネットB(皮膚粘膜曝露)で分析可能なデータは2009年度は421件/年/60施設、2010年度は416件/年/58施設、合計837件でした。
- 皮膚粘膜曝露報告者に占める職種は看護師が半数以上(57.0%)、医師が約3分の1(31.8%)でした。
- 報告全体に占める看護師の割合が微増(04-08; 55.0%→09-10; 57.0%)
- 発生場所は、病室(34.7%)、手術部(23.7%)で全体の5割を占める。大きな変化はないが、手術部での割合が微増(20.1%→23.7%)した。
- 曝露源患者の感染症検査の陽性率は、HCV陽性35.0%、HBs陽性9.7%、Hbe陽性0.6%でした。
- 曝露した血液体液の内訳は、血液が約7割(68.5%)を占め、唾液(11.3%)、痰(5.5%)でした。

JES2011エピネットB(皮膚粘膜曝露)まとめ(2)

- 汚染組織は眼が最も多く、増加傾向(60.5%→64.9%)にあり、次いで無傷の皮膚(26.6%)、傷のある皮膚(15.7%)でした。
- 汚染時の状況は、防備していない皮膚粘膜に触れたと報告したものが8割以上(83.2%)を占めた。
- 曝露時着用の防護具は、手袋なしが減少(33.5%→25.3%)し、1重の手袋着用が増加(52.8%→60.7%)している。
- 曝露経路は、患者から直接が45.3%を占めた。
- 汚染時間は5分未満が79%、接触量は少量(5cc未満)が90%以上を占めた。
- 報告者の70%以上がB型肝炎ワクチン接種による抗体を獲得していた。
- 緊急処置時における皮膚粘膜曝露であったのは12.6%で、87.4%は緊急処置時以外の曝露でした。